

3 飯教文第 870 号

令和 4 年 3 月 23 日

飯塚市文化施設活用検討委員会委員長 様

飯塚市教育委員会



諮 問 書

飯塚市文化施設活用検討委員会規則（令和 4 年飯塚市教育委員会規則第 1 号）第 2 条の規定に基づき、貴委員会に意見を賜りたく下記のとおり諮問いたします。

記

1. 諮問内容

嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること

- (1) 嘉穂劇場の文化財としての価値を損なうことなく、地域経済の活性化に寄与する活用方策について
- (2) 嘉穂劇場と飯塚市文化会館をはじめとする文化施設や周辺商業施設との連携による活用方針について

2. 諮問理由

国登録有形文化財である嘉穂劇場については、近年のコロナ禍の影響に伴い、令和 3 年 5 月に NPO 法人「嘉穂劇場」が解散し、同年 9 月に本市が NPO 法人から嘉穂劇場の建物と建物が建っている土地、嘉穂劇場に係る備品、その他保存資料等の贈与を受けたところです。

嘉穂劇場は、昭和 6(1931)年 2 月に木造 2 階建ての芝居小屋として再建され、升席や二本の花道、人力で動かす廻り舞台や奈落を備える全国でも有数の劇場として運営されて参りましたが、建築後 91 年が経過し、建物の老朽化が進む中、NPO 法人の解散により現在、閉館しておりますが、嘉穂劇場運営再開を望む地域住民等の声もあり市が所有し、リニューアルに向け準備を進めているところです。

このような状況を踏まえ、今後、嘉穂劇場を魅力ある施設として活用するには、これまでの芝居小屋としての利用に加え、周辺商業施設や文化施設との融和なども含めた、新しい発想を取り入れながら、文化財としての価値を損なうことなく地域経済の活性化にも寄与できる活用方策が必要であり、検討することとしておりますので、貴委員会でご審議いただきたく諮問するものです。

● 飯塚市文化施設活用検討委員会委員名簿

(敬称略 順不同)

	氏 名	所属又は現職
委員長	竹 川 克 幸	飯塚市文化財保存活用推進委員会委員 日本経済大学 教授
副委員長	河 知 延	近畿大学産業理工学部 教授
委 員	徳 永 高 志	慶應義塾大学大学院 非常勤講師
委 員	瓜 生 隆 弘	近畿大学九州短期大学 教授
委 員	田 中 克 也	九州旅客鉄道株式会社 JR新飯塚駅駅長
委 員	志 村 直 美	株式会社 JT B福岡支店
委 員	長 曾 我 部 徹	全国芝居小屋会議 事務局次長
委 員	榎 本 二 郎	株式会社 Z e r o - T e n 代表取締役
委 員	福 丸 奈 々 美	一般社団法人 飯塚青年会議所 まちづくり委員会委員
委 員	大 石 悠 斗	近畿大学産業理工学部 学生
委 員	寺 田 光 哉	近畿大学九州短期大学 学生
委 員	早 川 紗 帆	九州工業大学情報工学部 学生
委 員	田 上 稔	福岡県教育庁文化財保護課 課長技術補佐
委 員	眞 鍋 孝 博	福岡県商工部観光局観光政策課 課長補佐
委 員	奥 田 る り	NPO 法人 こどもと文化のひろば わいわいキッズいっづか

● 飯塚市文化施設活用検討委員会の審議経緯

回数	日 程	主な内容
第1回	令和4年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・飯塚市文化施設活用検討委員会について ・嘉穂劇場概要紹介 ・現地及び周辺に立地する文化・商業施設の見学
第2回	令和4年5月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・活用検討委員会スケジュールの見直しについて ・嘉穂劇場の文化的価値について ・嘉穂劇場の活動実績について ・嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリングについて ・意見交換
第3回	令和4年7月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果について ・他の文化財施設の活用状況 ・嘉穂劇場の活用策について（グループ討議）
第4回	令和4年8月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のグループ討議結果の報告 ・これからの嘉穂劇場が担う性格の整理とターゲットについて ・イヅカコスモスコモンとの連携について ・嘉穂劇場の新たな活用を図るために求められる具体的な機能等について ・新たな嘉穂劇場が目指す姿について
第5回	令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉穂劇場と地域経済の活性化 ・中間答申について ・新たな嘉穂劇場が目指す姿について
第6回	令和4年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の飯塚市文化施設活用検討委員会の運営について ・嘉穂劇場が地域経済の活性化に寄与する方策等について ・劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業を中心に）
第7回	令和4年12月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業を中心に） ・嘉穂劇場の運営方法と市民参画について ・最終答申案の構成と答申案について
第8回	令和5年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・最終答申案の検討

嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果

1. ヒアリングの目的

石炭産業隆盛期に筑豊地域の娯楽の場として人々に愛されてきた嘉穂劇場を、これからも多くの人に愛される施設として保存しながらも積極的に活用していくにあたり、これまで嘉穂劇場の運営や利用に携わってこられた方々に、今後の嘉穂劇場はどうあるべきか、また嘉穂劇場に期待することなど伺い、今後、本活用検討委員会で新たな活用策を審議する際の参考資料とするもの。

2. ヒアリング調査の概要

(1) 対象者

添付資料①のとおり

(2) 期間

令和4年5月30日～令和4年7月8日

(3) ヒアリング内容

- ① これまでの嘉穂劇場との関わり
- ② 嘉穂劇場に対する『評価』、『思い』
- ③ 今後の嘉穂劇場に対する期待 等

(4) 調査方法

- ・文化課文化施設整備推進係の職員による訪問により、関係者への聞き取りを実施。
- ・ヒアリングは、ヒアリング対象者のそれぞれの立場、関係性を考慮し、自由な発言を誘導する形で実施。

(5) 調査結果

- ・ヒアリング対象者の発言内容をカテゴライズして整理
- ・ヒアリングにおける主な意見は添付資料②のとおり

● ヒアリング対象者

対象者選定の視点	対象者	備考
嘉穂劇場の運営(設備状況)の立場から	嘉穂劇場元スタッフ	専属の舞台演出担当者
	東洋アミューズ 代表	劇場貸館時の音響、照明担当
嘉穂劇場の運営支援の立場から	飯塚商工会議所 専務理事	
	飯塚高校 理事長	元 NPO 理事、商工会議所副会頭
嘉穂劇場前身中座との関わりから	(株)麻生 会長	飯塚商工会議所会頭
嘉穂劇場の活用の立場から	飯塚文化連盟 名誉会長	劇場存続に奔走、建築凶面の復元(S47)
	飯塚文化連盟 会長	嘉穂劇場の継続的支援
	野武士 代表	ステージ登壇者 定期的に嘉穂劇場利用
	マルシェ企画運営 代表	嘉穂劇場でマルシェ開催
	(株)トーン 取締役	イベント企画会社 (Gotton Jam 開催 他)
	(株)NOTE 代表	イベント企画会社
	高文連 (福岡県高等学校芸術・文化連盟) 理事長	(事務局) 嘉穂高等学校
地元住民の立場から	東町東自治会長	郷土史研究家
	中田友文堂 代表	飯塚昭和通商店街 理事長
	学生服のタナカ 代表	嘉穂劇場隣接店舗
まちづくりの観点から	飯塚観光協会 事務局長	
	飯塚市商店街連合会 前会長	昭和通商店街店舗経営者
文化振興拠点の観点から	イイズカコスモスコモン 館長 (飯塚教育文化振興事業団業務執行理事)	

嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果（主な意見）

I 嘉穂劇場の評価

1 嘉穂劇場の評価

- ・嘉穂劇場は無二の劇場であり、桝席や花道などが存在する貴重な劇場である。演者や利用者は劇場の持つ「不便さ」に価値を見出し、利用しているという意見が目立った。
- ・また、嘉穂劇場は演者にとっても多くの有名な芸能人が舞台上に立った思い出のある場所であり、評価は高い。
- ・一方、地元においては嘉穂劇場の存在は当たり前であり、賑わい、騒音も日常のことであったが、これまであまり劇場と地元との関わりはなく、劇場はどちらかといえば敷居の高い存在であった。このため、地元でも劇場を残したいと思う者と不必要であると思う者がそれぞれ存在するようである。
- ・教育の観点からも、嘉穂劇場が貴重な経験を積むことができ、学びの場として有益な場所であったという意見がある一方で、高校文化祭のように、多くの学校が時間制限のある中で一堂に利用する際には、設備が現代的でなく控室なども少ないことから不便を感じていたようであった。
- ・海外の人々にとって、嘉穂劇場は非常にインパクトある施設として映っていたようで、大変喜ばれ、劇場で用意されていたコスプレ体験も非常に好評だったようである。
- ・料金については、高かったという回答がほとんどであったが、一方で劇場側の配慮により、無料で利用できたイベントもあったようである。
- ・嘉穂劇場は市民のシンボルになり得るもの、また飯塚市の魅力を形成する文化発信の場所として貴重であるが、その残し方は地域全体の活性化につながるものであるべきであるとの意見があった。

- ❖ 嘉穂劇場のような劇場はここにしかない。嘉穂劇場があるからこそ飯塚で文化的な活動ができるし、自分たちのような小さなイベント会社でも、有名な演者との出演交渉ができると考えている。
- ❖ 嘉穂劇場は、桝席や花道など使って通常のホールとは全く違う演出を考えることができ、また音響も一般的なホールと響きが異なるため、音響についても演者に喜ばれている。
- ❖ 世界の CM フェスティバルやマイクパフォーマンスなど企画したが、嘉穂劇場の力のある歴史的建物にふさわしい演者が会場に集まる気がしている。
- ❖ 桝席や栈敷席は、嘉穂劇場以外にはほとんど存在しない。正座する不便さにも価値があると考えている。

- ❖ 嘉徳劇場が個人経営の中で築いてきた役者とのつながりは、行政の運営になると難しくなるかもしれない。
 - ❖ 嘉徳劇場は演者にとっても思い出のある場所である。誰がステージに立ってきたかが重要なようで歴史のある場所であり、水害の際も多くの支援者によって復活しており、若いバンドマンにも人気のある劇場である。今でも演者から嘉徳劇場はいつから使えるのかの問い合わせがあっている。
 - ❖ 嘉徳劇場は、文化ホールのような便利さはないが、便利さを求める演者はいない。現在の環境の中、不自由さを楽しんで演じる場所が嘉徳劇場である。
 - ❖ 芸能界関係者からすると嘉徳劇場は素晴らしい財産であり、自分たちが当たり前に思っている以上にすごい劇場であると改めて感じたことを覚えている。
 - ❖ 舞台機構がほとんど人力であることに感動して帰られた演者もいた。
 - ❖ 劇場の舞台機構一つ一つに意味があり、建物自体が文化遺産であるが、劇場は見学の見学場所だけでなく、舞台（公演）があつての小屋である。
 - ❖ 嘉徳劇場は小屋主との一体感を感じる場所であった。嘉徳劇場は、ここにしかない劇場である。
-
- ❖ 嘉徳劇場の活用といわれても、嘉徳劇場があまりに身近にありすぎてピンとこない。ただ、嘉徳劇場を通じて、地域の良さを発信できるのではないかと思っている。
 - ❖ 座長大会の時には、お練りが商店街を回っていたが、その以外に商店街と嘉徳劇場との関わりはほとんどなかった。
 - ❖ 嘉徳劇場を地域の文化財として残す必要はあると思うが、地域はあまりそのことに関心を払っていない。市が嘉徳劇場をどのように使っていこうとするのかに興味がある。
 - ❖ 嘉徳劇場はこれまで地域の方々にとっては敷居が高かったのか、劇場と地域との変な距離感を感じていた。劇場側も地域に対して何かしようとすることも感じられなかった。今後、公共施設として管理していくのであれば、地域の人が利用しやすくするための「しかけ」を考えてほしい。
 - ❖ 嘉徳劇場は自分が生まれる前から存在する劇場であり、存在は当たり前のこと。日常生活の中に存在する劇場であるため、確かに劇場に近い室内にいと、太鼓など響いていたが店舗にいると音がうるさいなどの感覚は全くなかった。賑わい、騒音も日常である。
 - ❖ 地元でも劇場を残したいと思う者と不必要であると思う者がそれぞれ存在している。
-
- ❖ 教育に携わる者としても、嘉徳劇場が教育の場、生徒の発表の場として貴重な存在であると感じていた。
 - ❖ 嘉徳劇場の歴史、そして建物の内部の環境そのものは、他の地区にはないもの。嘉徳劇場からの発信は、学生によい刺激を与えてくれると同時に、海外からも高い評価を

得ていた。

- ❖ 照明等を吊り下げるバトンが竹製で古く、重量制限もあったことから、生徒等にはあまり好評ではなかった。
- ❖ 嘉穂劇場は利用料が高額であったため、演劇の会場として利用しようと考えても、大道具等の出し入れに裏方のスタッフを雇用したいが、スタッフの経費まで捻出することが厳しく、使いづらかった。
- ❖ 文化祭を運営する側としては、費用面と運営のしやすさから会場を選定する。嘉穂劇場は穴場ではあるが、文化ホールとして利用するにあたっては利用しづらい部分もある。
- ❖ 観光の視点から見て、嘉穂劇場は本市における貴重な資源。特にインバウンドの誘致において観光スポットになりうる。台湾からの観光客には、コスプレ体験が大人気であった。
- ❖ 嘉穂劇場は海外からのお客様を案内しても大変喜ばれた。劇場でコスプレの衣装など用意していただいていたので、インスタで発信するなど嘉穂劇場を大変楽しんでいた。
- ❖ 嘉穂劇場を失くすのはもったいないと思う。嘉穂劇場は特に海外からのお客様にはとても印象深い建物である。
- ❖ 嘉穂劇場での公演は、劇場を見たくて参加する方が多かったように思う。特に台湾やアメリカなど、海外からの参加者には嘉穂劇場の公演は好評だった。
- ❖ イベントで使用するにはこれまでの使用料は高すぎた。特に参加費無料のイベントでは、嘉穂劇場での実施は厳しすぎた。金額が下がれば、高齢者の発表の場としても利用できるのではないか。
- ❖ 嘉穂劇場は利用料が高く、これまで学校でホール等を使用する時は安価なコスモスコモンとうまく使い分けていた。
- ❖ インスタ映えからすると、嘉穂劇場より八千代座のほうが映える。
- ❖ コスモスコモン建設の際、嘉穂劇場とのすみ分けを「嘉穂劇場はその存立の歴史と現状から、古典芸能・大衆芸能の専門劇場として、一方新設予定の市立文化ホールは、現代舞台文化に親しめるホールとして、つまり互いの施設は、車の両輪として飯塚市民の舞台文化を育み薦める場」としたが、この原則は今でも生きていると思っている。
- ❖ 嘉穂劇場は観光の観点もあるだろうが、飯塚市の文化の発信の場としてぜひ残してほしい施設である。
- ❖ 旧飯塚市で文化連合会が昭和 42 年に設立。その後の活動の中で、市内にある嘉穂劇場は文化財として後世に残さなければならない劇場として捉えていた。
- ❖ 「教育」と「医療」と「文化」は、飯塚市の競争力を高める要素と考える。また現在

の飯塚はそれらの分野でとても頑張っていると思うが、その中の「文化」において嘉穂劇場は起爆剤の一つとなり得る魅力を持っていると感じている。

- ❖ 歴史のあるまちか否かは市のまちづくりに大いに影響する。文化財、歴史はまちの魅力の一つになり得る。旧伝右衛門邸、嘉穂劇場、コスモスコモンの3つはまちの魅力を形成する建物である。
- ❖ 嘉穂劇場は市民のシンボルになりうるものであり、残していきたいという思いはある。しかしながら、多額のお金をつぎ込んで残すものではなく、賑わいの起爆剤となるようなお金のつぎ込み方、お金が回る仕組みを作っていく必要があると考える。

2 これまでの利用の方法

- ・通常の芝居鑑賞、音楽鑑賞以外で、若い世代も多く参加した音楽フェスや太鼓の演奏会などでは、桝席等で食事しながらの鑑賞が可能なイベントも開催された。また、劇場全体を使ってマルシェが開催されたこともあった。
- ・桝席では2枚の板を渡してテーブルつき4人掛けの桝席を用意することも可能であったようである。
- ・コロナ禍では、劇場を低額で貸し出し、様々なパフォーマンス会場として活用されていた。海外へのライブ配信も行われたようである。
- ・そのほか、婚活パーティやダンスコンテスト、結婚式でも活用されていた。

- ◆ 音楽フェス『GottonJam』では、食事をしながら音楽を聴いていた。桝席にはテーブルを用意し、4人でひとマスを使用していた。座席には座布団を用意。
- ◆ かつて、「筑豊マルシェ」と題して、会場内に100~130ブースを用意し、嘉穂劇場の1, 2階の栈敷や廊下まですべて使って屋内でマルシェを開催していた。また駐車場にはキッチンカーを配置していた。開催は、劇場の利用者のいない平日に実施していたが、劇場の配慮で会場は無償で借りていた。参加者は出店料3,000円とスタッフの参加人数に合わせて入場料も支払う。それらはすべて嘉穂劇場に寄付をしていた。
- ◆ かつて、嘉穂劇場で仮面婚活パーティの開催をお手伝いしたこともあった。男性と女性が廻り舞台を挟んで座り、スタッフが廻り舞台を回転させてお見合い相手を変えさせようとするもの。カップルが成立しなければ奈落に落ちるようなこともやっていた。
- ◆ そのほかダンスコンテストや結婚式も開催されていたように思う。
- ◆ コロナ禍で嘉穂劇場での芸術活動が困難となった時、嘉穂劇場を低額で貸し出す『夢舞台プロジェクト』を実施したが、その際、プロの演者もお忍びで嘉穂劇場のステージに立っていた。

- ◆ 東京から DJ が来て演奏したこともあった。彼らは演奏とロケーションのギャップを面白がって嘉穂劇場に来ているようだ。
- ◆ 令和 2 年 12 月に『ジャパニーズ エルビス』をオンラインでライブ配信したところ、ロシアだけで 17 万回もの再生があった。海外の方には嘉穂劇場は非常にウケる。
- ◆ 嘉穂劇場見学者には、嘉穂劇場のお土産（手ぬぐい、駄菓子等）も用意し、販売していた。
- ◆ 桝席は 72 マスある。以前飯塚法人会から 1 マスに 2 枚ずつの板のテーブルをいただいたので、マスに板を渡し、1 マス 4 人掛けでセミナーなどを開催したこともあった。
- ◆ 座布団に座ることが難しい方がいらっしゃるのも理解している。以前、座椅子を用意したこともあったが、畳に跡がつくため途中でやめてしまった。
- ◆ 野武士（和太鼓）は、これまで嘉穂劇場をホームグラウンドとして利用させてもらっていた。嘉穂劇場での演奏を DVD でも海外に発信している。外国人には、嘉穂劇場の建物自体が非常に興味深いようである。
- ◆ これまで「野武士」の公演は、福岡では嘉穂劇場でしかやらなかった。演奏中も飲食可能であり、昔ながらの粋な文化をそのまま再現できた劇場をこれからもぜひ残してほしいと思う。

Ⅱ これからの劇場に期待すること

1 設備に関すること

・駐車場に関しては、現在の駐車場は狭く、中途半端な大きさであるため、広場など他の用途に使ったほうがいいのかという意見とともに、周辺の民間の駐車場を含めて嘉徳劇場周辺の駐車場の場所についてわかりやすい説明が欲しいという意見が多かった。

一方で、バスツアーの観光客を誘致するためには、観光客の乗降場所と駐車スペースを確保しなければならず、周辺の土地の利用についての提案もあった。

・嘉徳劇場の桝席や栈敷席などの構造は、不便さ、使いにくさがあるものの、これが嘉徳劇場の特徴であり、このままの形で残してほしいという意見がほとんどであった。ただし、栈敷席がフラットにもなれば、さらに活用の範囲が広がるのではないかと意見もあった。

・これから劇場を活用していくにあたっては、機材のデジタル化や映像による演出が可能となるような設備の導入を求める意見や、昭和 40 年代に整備された楽屋の改修を求める意見があった。

- ▶ イベント時には、駐車場でなく広場が欲しい。
- ▶ 嘉徳劇場の駐車場は中途半端であり、コスモスコモンに駐車して嘉徳劇場まで歩いてもらうようにしてもいいのではないかと。飯塚市が周辺を含めて嘉徳劇場の活用構想を示せば、周辺の店舗も変わっていくのではないかと。店舗が変われば、歩いている途中で購入する者も出てくるかもしれない。
- ▶ イベントで活用するとしても駐車場の問題がある。現在の民間を含めての周辺の駐車場の場所もわかりにくい。
- ▶ 現在の駐車場をほかの用途で活用できないかとも思う。ただし、駐車場はどうしても必要であるが、河川敷は天候に左右され、使いづらい。嘉徳劇場をバスツアーで訪れる際は、観光客の乗降場所とバスの駐車スペースがなければ、バスツアーの観光客を誘致できない。
- ▶ 嘉徳劇場の活用の際には駐車場の確保が重要である。河川敷の活用も検討すべきか。嘉徳劇場周辺にも空き家や廃業予定の土地がある。それらの土地を活用すれば、嘉徳劇場への観光バスでのアクセスもしやすくなるのではないかと考えている。
- ▶ 嘉徳劇場周辺には民間の駐車場も多いが、わかりにくいと聞く。地域全体で協力し合えば民間もまとまり、利用しやすくなるかもしれない。
- ▶ 嘉徳劇場の駐車場は、駐車場として使用するには狭かった。
- ▶ イベントに参加したい人は、近くに駐車場がないからと言って来ないことはなく、どこに停めてでも来る。長時間のイベントなどは駐車場の割引など用意していただける

と使いやすい。

- ▶ (コスモスコモンの展示ホールはほとんど利用が詰まっており、なかなか利用できない。) 嘉徳劇場の座席をフラットにしたら、利用頻度も高くなるのではないか。
- ▶ 観光には目玉、「看板」が必要。嘉徳劇場の桝席も、桝席を体験したいために人はやってくる。桝席は残していきたいものである。
- ▶ コモンと嘉徳劇場を併用する際には、例えば、バリアフリーはコモンに任せて、栈敷を生かした活用をする際は嘉徳劇場というようなすみ分けを考えてはどうか。多くの人々に開かれた施設であるほうがよく、一定の配慮は必要であると考えているが、嘉徳劇場は桝席、栈敷席に座るということが意味あることであり、飯塚高校の生徒からも、嘉徳劇場の環境から学ぶこと（桝席での譲り合いや声掛けなど）が多かったと聞いている。
- ▶ 嘉徳劇場はこのままの形で残してほしいと思う。不便さ、使いにくさが嘉徳劇場のいいところだと思っている。この状態が海外の方にはウケているようである。
- ▶ かつてのように、正面の櫓で触れ太鼓をたたくことができたらよいと思う。しかし、櫓に上がるには天井裏に入らなければならないので、別に通路を設ける必要がある。
- ▶ 今後の機材として、2階後方から投影できるプロジェクターの設置を望む。映像を使う演出が多く、必要性を感じる。
- ▶ これからの嘉徳劇場の活用を考えると、ネット環境の整備は必要であると感じる。
- ▶ 嘉徳劇場の靴の管理はどうにかならないものか。いつもビニール袋のごみが山のようになっている。
- ▶ 劇場が立地する場所柄か、劇場を使用しているときに音漏れがうるさいなどの苦情を地域から受けた記憶はないが、逆に雨音がひどかったり、救急車のサイレンがうるさいなど外の音が劇場内に入り込み、興ざめとなる場合があった。
- ▶ 劇場そのものは水害後の復旧できれいになったが、楽屋等は以前のままであり、このままでいいのかと思う。改修が必要なのではないか。

2 料金に関すること

- ・料金については、高かったという意見がほとんどであった。しかしながら、安くなれば利用が雑になり、質の高いアーティストを呼ぶことが難しくなるのではないかという懸念も示された。
- ・また市民が利用しやすい劇場であるよう、営利と非営利とで料金設定を分けるなどの工夫が必要であるとの意見が多く聞かれた。

- ☆ 嘉穂劇場の今後の利用料について考える。質の良いアーティストを呼ぶためには、ある程度の料金設定をしたほうがいいのではないかと思う。安すぎると多くの人々が利用しようとし、劇場の確保が困難になる。
- ☆ 営利、非営利等で料金設定を分けて考えるほうがいいのではないか。
- ☆ 今後、行政で嘉穂劇場の利用料を設定することになるのだろうが、コモンの利用料と差がつくのはいいと思うが、これまでの利用料よりもう少し安くなれば使いやすくなるのではないかと思う。
- ☆ 嘉穂劇場はこれまで使用料が高く利用できなかったが、非営利活動などの際には減免するなどして、地域の活性化につながる活動を支援する劇場であってほしい。
- ☆ 利用料で折り合えば利用も考えられる。一般の利用と学生の利用とは利用料金に差をつけるなど考えてほしい。
- ☆ 今後、利用料金が検討されるであろうが、料金が安くなると利用が雑になるのではないかと懸念する。付加価値を付けた料金設定であってもいいのではないか。
- ☆ 子どもたちには使いやすく、芸能人には格式高くなど、区分があってもいいのではないかと思う。

3 観光の視点・文化財の視点からの意見

・嘉穂劇場は海外の観光客を含めて観光のリソースとなり得るという意見の一方で、現状のままでは爆発的な人気を生むことは難しく、観光の要素にはなりえないという意見も多く聞かれた。嘉穂劇場で提供できるコンテンツのブラッシュアップや劇場周辺とのコラボレーションの重要性を指摘する声が聞かれた。

- ☆ 文化資産として残すよりも、観光のリソースとして残すものではないかと考える。そのためには劇場周辺部も含めて活用する方策を考えるべきではないか。
- ☆ このままの形であれば爆発的な人気を生むことは難しく、飯塚市の観光の要素にはなりづらいと感じる。視点を変えた新しい要素を加えなければ、観光スポットにはならないのではないか。
- ☆ 現在、国内において徐々に外国人観光客を受け入れ始めているが、本市においてもインバウンドを考えるとときには台湾からスタートする可能性がある。そのためにも、言語や表記を外国人仕様にしていかなければならない。
- ☆ 歌舞伎は風情のある嘉穂劇場で見たいと思う観光客は多い。ただし、誰が来るかが重要である。歌舞伎愛好者は世代が広い。人はただ「小屋」を見には来ない。そこで体験

できるコンテンツが重要である。

- ☆ 海外から人を呼び込むのに嘉穂劇場は身近で気軽に訪れ、文化に触れることができる施設としてもっと売り出した方が良い。観光資源としても必要な施設である。
- ☆ 嘉穂劇場は、飯塚市を知っていただくうえで「地の利」が良いと感じる。周辺には千鳥屋や長崎街道の通りがあり、飲み屋街にも歴史がある。
- ☆ 嘉穂劇場は中心市街地に所在しているが、嘉穂劇場を含め以前は「面」で存在していた観光スポットは、現在「線」でしか存在していない。その点は残念である。
- ☆ 嘉穂劇場を観光資源として利用することには難しさがあると思うが、文化財として残してほしいと思っている。

4 まちづくりに関すること

・嘉穂劇場単体で考えるのではなく、周辺部とが一体となって、まちで時間を過ごすことのできる空間づくり、賑わいづくりを求める意見が複数聞かれた。また、嘉穂劇場の特異性を生かして、嘉穂劇場を核として文化を大切にする飯塚に愛着を持つ人が集まってくるまちづくりを進める必要があるとの意見があった。

- ◎ 嘉穂劇場の周りに店舗（食事処や土産物店等）がない（少ない）のがネックとのアンケートの回答あり。周辺の町も盛り上がる企画が必要。
- ◎ 人流が増加することによって、空き店舗もお客様のニーズに合った店舗に変化していかなければならない。
- ◎ 嘉穂劇場の廻りは飲み屋街があるが、新宿の末広亭の周りも飲食店が立ち並んでいる。梅田花月の周りでも飲食ができる。興行など見た後に飲食ができ、楽しめる、そんな大人の遊び方ができる空間であってほしい。嘉穂劇場とその周辺部分が一緒になって、時間を過ごすことのできるまちになってほしい。
- ◎ 劇場単体ではなく、周辺とタイアップしての整備が必要と思っている。例えば、嘉穂劇場の裏口は、昭和通りにつながっている。その裏口をうまく活用すれば商店街との回遊性が増し、賑わいづくりにつながるのではないか。
- ◎ 劇場を保存するのは簡単だが、継続して活用していくのは難しいことと思う。町内も世帯数が減少傾向にあり、隣組が機能しない場所も出てきた。町内としても、街が元気になるような取り組みを期待する。
- ◎ 嘉穂劇場がわかりにくい。劇場を訪ねようとする人が、場所がわからずよく尋ねられていた。

- ◎ 文化的な面白みのないところには人は集積しない。文化を大事にしているまちであることを飯塚市は発信していくべき。
- ◎ 何をターゲットにして人を呼び込むか。飯塚への愛着を持つ人が集まる取り組みが必要である。商業や利便性、新しさを求めるのであれば、人は福岡市に流れていく。でも福岡市には嘉穂劇場はない。嘉穂劇場を中心に歴史や文化の優先順位を高くしたまちになれば、それを求めてくる人が集まってくる可能性はあると思う。
- ◎ 利便性だけ追求すれば福岡市に負けてしまう。嘉穂劇場にしかない『モノ』で、嘉穂劇場でしかできない『モノ』で人を呼びこむことができる。
- ◎ 明るい街には笑いがあり、若者が育つまちは魅力的である。さらに高齢者が笑っているまちであってほしい。その場所として嘉穂劇場が使われることを期待したい。

5 その他の提案

- ・今後の新たな活用策として、大物の役者の芝居が定期的にあるようになれば、嘉穂劇場の知名度も上がるのではないかと提案の一方で、地域住民が利用できるよう、特に子供たちが嘉穂劇場を使う方策を考えることが大切との意見が多く聞かれた。
 - ・日本文化に関心の高い海外の方々に対しては、海外の映画やプロモーション等のロケ地としても活用されるのではないかと意見もあった。
 - ・運営方法については、大手事業所の協力を得ることについての提案や、今後の維持運営に対して、地域住民が応援していく体制の整備が必要であるとの意見もあった。
- さらにお土産の準備、特に海外の方に喜ばれる T シャツ等の製作とともに、飯塚市の御土産を販売するアンテナショップを劇場内に設置する意見なども出された。
- ・その他、嘉穂劇場とコスモスコモンすみ分けに関する整理や、嘉穂劇場再開までのプロセスに対する意見もあった。

- ★ 年に数回でもいいので、大物の役者が嘉穂劇場に来てくれれば影響が大きい。嘉穂劇場を知る役者もいる。嘉穂劇場の名前をうまく使って知名度を上げて行くことが重要。
- ★ 浅草の軽演劇の劇場では旅役者の公演に行列ができ、また特に若い女性が足を運んでいるというニュースを見た。女性が軽演劇に魅力を感じているところに、嘉穂劇場活用のヒントがあるのではないかと思う。
- ★ 嘉穂劇場はなんとなく敷居が高い。スターの公演や古典に限らず、市民が気軽に劇場に問い合わせができ、利用できるよくなる方がいいのではないか。
- ★ 嘉穂劇場の今後の活用策として、小学生に飯塚の歴史を嘉穂劇場で学ぶようにしてはどうか。子どもたちにも郷土の歴史を学んでもらうことは重要であり、また、子どもた

ちも出かけて学ぶことを喜んでくれると思う。

- ★ 嘉穂劇場を子供山笠の表彰式で使うなど、子どもたちに使ってもらうことを考えてはどうか。
- ★ 嘉穂劇場を発表の場を求めている人に開放してほしい。市内の子どもたちが発表の場として嘉穂劇場に立てば思い出ともなる。
- ★ 昔の食事を提供したりするのも面白い。また、楽屋に宿泊するのはどうか。
- ★ 全く異なった使い方の案として、例えば楽屋もあるので、シェアオフィスとして使うのはどうか。また、嘉穂劇場の聖地巡礼的な使い方もある（例えば「椎名林檎がコンサートした劇場」ということをアピール）。組み合わせの意外性が人の心を動かす。
- ★ 今後の嘉穂劇場の新たな活用策として、本市はサニーベールからの子どもたちを受け入れているが、海外の子どもたちは日本語の文字や漢字の入った T シャツなどのお土産を好んでいる。かつて嘉穂劇場も名前が入った T シャツを販売していた。海外から来た方々へのお土産を嘉穂劇場で販売してはどうか。
- ★ 飯塚土産のアンテナショップとして劇場を活用するほか、先日本庁の多目的ホールで開催したようなふるさと納税返礼品の販売イベントを嘉穂劇場で実施してはどうか。
- ★ 地元の人の中でも嘉穂劇場に入ったことのない人は結構いるのではないか。嘉穂劇場をもっと身近な施設として利用してもらうことが大切なのではないか。そのためには、いろいろなイベントの会場として利用する方法を検討する必要があるのではないか。
- ★ ハリウッドからも映画のロケ地として関心を持たれている。『TOKYO VICE』は全編すべて日本ロケで描くドラマだが、ハリウッドに限らず海外ではサムライや忍者など日本文化に関心が高く、嘉穂劇場はロケ地として十分に評価される劇場であると考えられる。
- ★ これからの嘉穂劇場は、海外を含め、プロモーションやロケ地としても十分に価値ある劇場だと思う。併せて、嘉穂劇場は成人式会場など、様々な使い方が考えられる劇場ではないか。
- ★ 嘉穂劇場のネーミングライツなど考えてはどうか。安定的な事業費の確保が可能となる。また大手のイベント会社の運営協力も検討できないだろうか。
- ★ お笑いライブはなかなか地方都市では楽しめていないイメージがある。大手の事業所が定期的に嘉穂劇場を使ってくれる仕組みがあるといいのではないかと思う。
- ★ 全国的に名の知れた事業者が嘉穂劇場の運営をするなどすれば、地域経済の活性化のノウハウも持ち合わせていると思われ、力を貸してくれるのではないか。
- ★ 劇場を文化財のハコモノとして維持・保存するだけでは限界がある。興行を行い、あわせて見学もできることに意味がある。壊さずお金を稼ぐ仕組みを作るべき。街並みを作ることも大切。その際にはお土産と飲食が必要。

- ★ これまで嘉穂劇場と地元の人たちとのつながりの歴史は残念ながらなかったが、今後施設を維持していくのであれば地域の人がバックアップする体制が必要だと思う。
- ★ コスモスコモンは市民の文化に触れるすそ野を広げる役割をもつ施設であり、一方、嘉穂劇場は他にはない飯塚の「とんがった」部分を引き出す施設として考えるのが良いのではないか。
- ★ 嘉穂劇場とコスモスコモンは近接しているのがよい。今後両者の特色を生かしてイベントが実施できる。嘉穂劇場は使い方次第である。
- ★ 高文連の大会は1年前にはスケジュールを決定する。そのスケジュールに対応できる施設であってほしい。
- ★ 一度途絶えてしまうと、復活するまでにはかなりの時間が必要である。嘉穂劇場も一旦人々の気持ちが離れてしまうと、以前のような利用者の獲得も難しくなるのではないか。利用者の視点で考えていく必要がある。

第 1 期 嘉穂劇場建設後の全盛期 (1931(昭和 6)年～1955(昭和 30)年頃)

全国的に炭鉱は全盛期を迎え、1940(昭和 15)年には史上最大の出炭量を記録する。この年、嘉穂劇場を再建した伊藤隆氏が病に倒れ、妻・姉妹による経営に移ってゆく。翌年には第 2 次大戦が始まり、劇場運営には制約が多かったが、当時の筑豊には多くの外国人労働者がおり、壊滅的な空襲に遭うことなく、興行を続けている。

第 2 期 劇場運営の下降期 (1955(昭和 30)年頃～1970(昭和 45)年頃)

1955(昭和 30)年台のエネルギー政策の転換により、炭鉱の閉山が相次ぎ、1961(昭和 36)年には 160 鉱、1967(昭和 42)年には 43 鉱まで減った。筑豊地区には失業者があふれ、1960(昭和 35)年には 2 万 2000 人を超えた。それに伴い、劇場の運営も下降線をたどった。この時期に筑豊の多くの劇場は閉鎖や解体される。1964(昭和 39)年に伊藤英子氏を中心に従姉妹小金丸兄妹での運営に移る。

第 3 期 時代の変化に伴う劇場の改変期 (1970(昭和 45)年頃～1985(昭和 60)年頃)

全国的に残された芝居小屋は数えるほどとなり、閉鎖された筑豊の芝居小屋もほぼ姿を消す。長年の使用により痛みの激しい楽屋や売店棟などの改築や、建物を維持するための補修に加え、消防法の改正など古い木造の建物には厳しい時代となる。1974(昭和 49)年演劇学会が飯塚で開催され関係者の注目を浴び、嘉穂劇場の存続がたびたび報道されるようになる。1979(昭和 54)年にかつて九州で活躍した大衆演劇の劇団座長による全国座長大会の開催が話題になるなど、各地でも芝居小屋の復活運動が始まる。

第 4 期 劇場の転換期 (1985(昭和 60)年頃～2004(平成 16)年頃)

1985(昭和 60)年金毘羅大芝居での歌舞伎公演開催をはじめ、この頃より康楽館(秋田県)、内子座(愛媛県)、八千代座(熊本県)など相次いで修復工事を終え再開する。1993(平成 5)年八千代座の復興運動に携わった八千代座棧敷会の呼びかけにより全国の芝居小屋関係者が集まり芝居小屋会議を八千代座で開催するなど芝居小屋の活用を考える時期を迎える。なお、飯塚市文化会館(イズカコスモスコモン)が1991(平成 3)年 12 月に竣工。嘉穂劇場は2001(平成 13)年、築 70 年を迎え、地盤も悪く、奈落や床下の湿度が高いこともあり、近いうちに大規模な改修工事を必要としていた。2003(平成 15)年 7 月の福岡県北部豪雨により壊滅的な被害を受ける中、芸能関係者や一般市民からの大きな支援・協力により、2004(平成 16)年 9 月に復旧工事が完了。

なお、2004(平成 16)年からは NPO 法人嘉穂劇場により運営される。

第 5 期 劇場運営の新展開期から運営の危機・NPO 解散

(2004(平成 16)年頃～2021(令和 3)年)

2006(平成 18)年 12 月に「観光立国推進基本法」が成立し、2008(平成 20)年 10 月には「観光庁」が発足、訪日外国人受入の促進や国際会議の誘致・促進、宿泊を伴う滞在型観

光のための観光圏の整備の促進等に取り組み、観光立国の実現を目指す取り組みがスタートした。国内においては、2008(平成 20)年のリーマンショックや 2011 (平成 23) 年の東日本大震災時には一時的な落ち込みはあるものの、基本的には順調に訪日外客数を伸ばしていた。一方、飯塚市においては 2007(平成 19)年から旧伊藤伝右衛門邸一般公開を契機に観光入込客数は 200 万人を超えたが、それ以降ほぼ横ばいが続き、2010(平成 22)年からは減少に転じている。このような中で、国内の、特に福岡市への訪日外客をターゲットに「忍者体験ツアー」など嘉穂劇場に誘導する事業を旅行会社とともに企画するなど、あらたな劇場利用者の獲得に取り組んだ。これらの活動が功を奏し始めた矢先、2019(令和元)年末に新たに発生した新型コロナウイルス感染症により、興行や各種イベントは軒並み中止となり、老朽化した施設の改修を含め運営の先行きが見通せない中で 2021(令和 3)年 5 月、NPO 法人嘉穂劇場は経営を断念し、解散に至る。

参考資料：飯塚市登録文化財 嘉穂劇場復旧工事報告書
特定非営利活動法人 嘉穂劇場（平成 17 年 3 月）